

大祭司なるイエスを仰ぐ

へブライ人への手紙三章一〜六節

だから、天の召しにあずかっている聖なるきょうだいたち、
私たちが告白している使徒であり、大祭司であるイエスのこ
とを考えなさい。(一)

私たちの日々の生活は、主イエスから目を逸らさせるような出来事が次々と起
こってきます。そのような私たちに、「今こそ主イエスを仰げ」と聖書は語りま
す。私たちが仰ぐべき方は、大祭司なるイエスです。「大祭司なる」とは、主イ
エスは今も、神と私たち罪人との間に立って執り成しをしておられるということ
です。私たちは大祭司イエスの執り成しなしには生きることができない者たちで
す。自らが神の前に罪人であることを深く自覚している者は、日々、大祭司なる
イエスを仰ぎ見つっ生きるはずです。神の支えなしに生きていけない自分である
ことを知っているからです。私たちが今日も確信をもって生きることが出来るの
は、日ごとに執り成したもう大祭司イエスがおられるからです。どんなときも、
大祭司なるイエスを仰ぎ見つっ、生きようではありませんか。